

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2019年度）【2021年10月6日時点】

*参考：【 】内は2018年1月～12月の調査結果

病院版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院94施設
- (2) 調査対象期間：2019年4月から2020年3月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル(Excel形式)でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：80.9%（76病院から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか

可：42病院（55.3%）

I 輸血管管理料取得状況について

50病院（65.8%）〔管理料Ⅰ：11病院、管理料Ⅱ：39病院〕

II I & A取得状況について

取得済：5病院（6.6%）

III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数 【65病院（82.3%）】
65病院（85.5%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

11病院

（指導医がない：5、他の委員会で協議：4、使用がほとんどない：5、その他：0）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科：29（心臓血管、脳神経、整形等を含む）、内科：22（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、麻酔科：3、循環器科2、泌尿器科2、耳鼻咽喉科2、その他2、未回答：3）

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：49、12回/年：6、1回/年：3、2回/年：2、4回/年：1、8回/年：1、
10回/年：1、11回/年：1、1～2回/年：1

- (5) -1 県内認定臨床輸血看護師、アフエレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：73、認定・アフエレーシスナース：4、認定・自己血輸血看護師：13
認定・輸血検査技師：25

- (5) -2 輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有65施設）

認定臨床輸血看護師：36（19/65） 認定・アフエレーシスナース：2（1/65）
認定・自己血輸血看護師：6（4/65） 認定輸血検査技師：16（14/65）

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：54病院（71.1%）【57病院（72.2%）】

}	検査部	56件
	輸血部	3件
	薬剤部	5件
	その他	1件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

}	検査部	62件
	薬剤部	16件
	輸血部	5件
	その他	4件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：67病院（88.2%）【71病院（89.9%）】

}	記録の頻度	毎日	70件
		年に1回	1件
		週に1回	1件
		不定期	1件

警報装置：68病院（89.5%）【74病院（93.7%）】

}	冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度	毎日	47件、	年に1回	11件、	月に1回	6件、
		週に1回	3件、	半年に1回	1件、		
		その他	1件				

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：62病院（81.6%）【63病院（79.7%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：27病院（35.5%）【27病院（34.2%）】

3) 管理記録簿等：76病院（100.0%）【79病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）

コンピュータ管理：27、手書き伝票：26、両方：23

(4) 輸血前後の感染症検査の実施

輸血前のみ：16病院、輸血後のみ：13病院、両方：42病院、行っていない：4病院、未回答：1病院

1) 輸血前の感染症検査項目：
HBV 57件
HCV 57件
HIV 29件

2) 輸血後の感染症検査項目：
HBV 57件
HCV 57件
HIV 46件

(5) 感染症検査用検体の保管等

63病院（82.9%）【64病院（81.0%）】

(6) 遡及調査ガイドラインで求められる検査項目の認知

24病院（31.6%）

V 輸血検査および輸血実施について

- (1) 患者血液型検査の二重チェック：64病院（84.2%）
- (2) 不規則抗体スクリーニング
- 1) 輸血前不規則抗体スクリーニング：72病院（94.7%）
 - 2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：74病院（97.4%）
 - 3) 陽性となった場合の対応：

{	民間の検査センター	30病院、自施設	26病院、
	血液センター	9病院、自施設・血液センター	9病院、
	民間の検査センター・血液センター	1病院、未回答	1病院
- (3) 交差適合試験
- 1) 輸血前交差適合試験：75病院（98.7%）
 - 2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施：75病院（98.7%）
 - 3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：74病院（97.4%）
 - 4) コンピュータクロスマッチの実施：4病院（5.3%）
 - 5) 陽性となった場合の対応：

{	自施設	27病院、血液センター	25病院、
	民間の検査センター	16病院、自施設・血液センター	6病院、
	民間の検査センター・血液センター	2病院	
- (4) 説明と同意（インフォームド・コンセント）について**(新規追加)**
- 1) インフォームド・コンセントを担当する主な職種：

{	医師	69病院
	看護師	6病院
	未回答	1病院
 - 2) 頻回輸血における同意書の取得頻度：

{	月1回	24病院、2～3か月に1回	10病院、	
	年1回	9病院、週1回	6病院、その他	24件、
	未回答	3病院		
- (5) 患者認証方法
- 1) 実施場所：

{	患者ベッドサイド	58病院、
	患者ベッドサイド・ナースステーション	12病院、
	ナースステーション	5病院
	未回答	1病院
 - 2) 複数名で確認している：72病院（94.7%）
 - 3) 電子照合システム導入：37病院（48.7%）
- (6) 経過観察
- 1) 輸血開始後バイタルチェック：

{	5分・15分	68病院（89.5%）
	5分	2病院（2.6%）
	15分	6病院（7.9%）
 - 2) 輸血終了後バイタルチェック：76病院（100.0%）

VI 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 244,491 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 104,600 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、42.8% である。
- (2) 血小板製剤の使用量は 111,010 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、45.4% である。
- (3) 血しょう製剤の使用量は 28,881 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 11.8% である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 2,150 単位

【2,150 単位】

全血液製剤の廃棄率は 0.9% である。

【1.1%】

(1) 赤血球製剤の廃棄量は 1,339 単位。

【1,529 単位】

(2) 血小板製剤の廃棄量は 305 単位。

【365 単位】

(3) 血しょう製剤の廃棄量は 506 単位。

【773 単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 16 病院 【15 病院】

VIII 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 25,357 人 (うち、年代別不明：男性 2,190 人、女性 2,209 人)

90 歳以上	2,474 人 (9.8%)
80-89 歳	5,580 人 (22.0%)
70-79 歳	5,803 人 (22.9%) (うち、70 歳以上年代詳細不明：329 人)
60-69 歳	3,915 人 (15.4%)
50-59 歳	1,569 人 (6.2%)
40-49 歳	761 人 (3.0%)
30-39 歳	368 人 (1.5%)
20-29 歳	160 人 (0.6%)
10-19 歳	113 人 (0.4%)
5-9 歳	29 人 (0.1%)
0-9 歳	186 人 (0.7%)
年代不明	4,399 人 (17.3%)
男性	13,270 人 (52.3%)
女性	12,087 人 (47.7%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数：76)

※うち 5 施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数 10,122 人 (うち、内科診療科詳細不明：65 人)

消化器内科：	2,588 人
循環器内科：	1,176 人
呼吸器内科：	1,444 人
血液内科：	4,468 人
その他内科：	1,681 人

外科全体数 11,323 人

消化器外科：	1,545 人
呼吸器外科：	121 人
心臓血管外科：	1,279 人
形成外科：	106 人
整形外科：	2,930 人
脳神経外科：	901 人
その他外科：	4,441 人

その他診療科全体数 4, 171人

{	小児科 :	265人
	産婦人科 :	628人
	泌尿器科 :	1, 175人
	麻酔・集中治療科 :	2, 009人
	その他 :	94人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院 : 25病院 (32.9%) 【26病院 (32.9%)】

○貯血式自己血輸血 (液状保存)

実施症例数 (同種血併用例) : 1, 066例 (13例) 【1, 453例 (26例)】
 採血量 (貯血量) : 3, 205単位 【3, 849単位】
 使用量 (輸血量) : 2, 887単位 【3, 355単位】

○貯血式自己血輸血 (凍結保存)

実施症例数 (同種血併用例) : 10例 (0例) 【9例 (0例)】
 採血量 (貯血量) : 0単位 【34単位】
 使用量 (輸血量) : 8単位 【28単位】

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握 :

{	はい	8病院
	いいえ	32病院
	その他で管理	3病院
	未回答	33病院

実施症例数 (同種血併用例) : 384例 (222例) 【354例 (225例)】
 使用量 (輸血量) : 321, 556mL 【409mL】

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握 :

{	はい	8病院
	いいえ	27病院
	その他	1病院
	未回答	40病院

実施症例数 (同種血併用例) : 0例 (0例) 【5例 (1例)】
 採血量 (貯血量) : 0単位 【12単位】
 使用量 (輸血量) : 0単位 【12単位】

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計 : 336, 514.7g 【358, 444.0g】
 フィブリノゲン製剤合計 : 938.8g 【516.0g】

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施

{	外来輸血	43病院 (56.6%)
	在宅輸血	0病院 (0.0%)
	どちらも実施なし	31病院
	未回答	2病院

(2) 外来輸血後の患者観察

{	医療関係者	31 病院
	患者家族	7 病院
	医療関係者・	5 病院
	患者家族	

(3) 在宅輸血時の患者観察 医療関係者 0 病院

(4) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科

{	血液内科	19 件
	消化器内科	18 件
	循環器内科	11 件
	その他	25 件

(5) 疾患名・人数

血液疾患	: 25 件 (552 人)
腎疾患	: 17 件 (199 人)
悪性腫瘍	: 13 件 (227 人)
消化管出血	: 19 件 (239 人)
その他	: 17 件 (177 人)

(6) 使用されている製剤の種類

赤血球製剤	: 13,045 単位
凍結血漿製剤	: 1,069 単位
血小板製剤	: 9,819 単位

(7) 実施中または実施後の有害事象発生: 16 病院

1)内訳: 発熱 9 件、アレルギー症状 7 件、呼吸困難 0 件、血圧低下 2 件、その他 3 件

2)発生時点: 外来輸血

{	院内で実施中	12 件
	院内で休憩中	2 件
	帰宅中	1 件
	帰宅後	3 件

(8) 外来輸血に対応した有害事象発生時のマニュアル: 22 病院 (28.9%)

(9) 外来輸血実施後の院内での休憩時間

{	30分未満	16 病院	【14 病院】
	30分以上1時間未満	17 病院	【12 病院】
	1時間以上2時間未満	9 病院	【8 病院】
	2時間以上	1 病院	【3 病院】

※前回の本項目における回答は37施設であった。

(10) 外来輸血が必要とされる患者の紹介先が予め決まっている: 14 病院 (18.4%)

(11) 輸血のみを診療目的とする患者の受入: 15 病院 (19.7%)

XII 製剤別購入量・廃棄量について

	購入量 (単位)	廃棄量 (単位)	廃棄率 (%)
赤血球製剤	104,600	1,339	1.3
血小板製剤	111,010	305	0.3
血しょう製剤	28,881	506	1.7